

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690700010
法人名	社会福祉法人愛誠会
事業所名	グループホーム芦穂の里
訪問調査日	平成 19年 8月 7日
評価確定日	平成 19年 12月 12日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年8月23日

【評価実施概要】

事業所番号	第4690700010号
法人名	社会福祉法人愛誠会
事業所名	グループホーム芦穂の里
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字大熊字名浜1309-1 (電話)0997-57-7705
評価機関名	特定非常利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成19年8月7日

【情報提供票より】(19年 7月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建て	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2			3名
要介護3	3名	要介護4			1名
要介護5	名	要支援2			名
年齢	平均 83.3 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人平成会平瀬医院、医療法人畠山歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

美しい海と港、住宅地に囲まれて、自然と人々の温もりを感じる中に開設されているホームである。恵まれた環境の中で、職員は利用者と共に寄り添い、触れ合うことを大切にしながら、飼い犬の世話や散歩、地域の方々との交流など、いきいきと生活を楽しんでいる。開設間もないホームであるが、管理者の職員への信頼度は厚く、自主性を重んじ、チームワーク形成と職員育成に努めている。地域密着型サービスのホームを目指し、日々邁進している。今後ますますの発展が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念を重要事項説明書に明記しており、来訪者に分かりやすく玄関に表示している。市町村や地域との交流は担当者や地区住民が運営推進会議に出席するなど、相談や協力体制を築いている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解している。全員で自己評価に取り組み改善課題を法人の理事会で検討後、職員会、運営推進会議で報告や意見交換を行い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の担当職員、公民館長、民生委員、家族代表、法人関係者等、多方面の参加者で構成されている。ホームの取り組み内容や、外部評価の報告をしている。意見交換を行い、要望や助言を運営に活かしながら、協力関係を構築している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族等の来訪時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。遠方の家族には手紙や電話で報告し、金銭管理は通帳のコピーと領収書を送付している。来訪時に意見や要望を出してもらえるように努力している。出された意見や要望等はミーティングで話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域行事や清掃に参加している。保育園・小学生のボランティアもあり、又応急処置の手当法を公民館において、地域住民の方々を行う準備もしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義とその人らしく暮らせる理念を支援として職員全員で確認し、家族や地域との交流を重視した理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	来訪者に分るように、玄関に理念を掲示している。日々の申し送りや定例会で、理念を伝えて共有し、ケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事への参加や保育園・小学生のボランティアもある。応急処置の緊急訓練を公民館において地域住民の方と行う準備もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しながら全員で、自己評価に取り組み、改善課題を法人の理事会で検討後、職員会、運営推進会議で報告や意見交換を行い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	公民館長、民生委員、家族代表、行政の職員等、多方面の参加で構成されている。チームの取り組み内容や評価の報告又、改善課題や協力関係を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口や包括支援センターには相談や連携が図られている。運営推進会議に市の担当者も参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。遠方の家族には手紙や電話で報告し、金銭管理は通帳のコピーと領収書を送付して報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に近況を報告しながら、意見や要望を出してもらうよう努力している。家族との会話の中で得られた意見や要望等はミーティングで話し合い運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設間もないホームであるが、職員の異動は少なく職員と利用者、家族との馴染みの関係ができています。職員の採用時にホームの理念やケアの考え方を伝え、利用者の不安がないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、資格や経験を考慮し、全職員で交代しながら参加しており研修報告を行い、共有できている。毎月の定例会で内部研修も行っており、職員の技術や知識の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島グループホーム協会に加入しており職員交換研修会が計画されている。他グループホームの見学に利用者で行く等気軽に連絡、相談できる関係を築いており互いにサービスの質の向上に向けて取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に在宅、施設に出向き本人や家族の思いの把握に努め見学をしてもらい、不安なく利用できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に寄り添い、触れ合うことを大切にし、喜怒哀楽を共にし、利用者からつむぎの織り方を教わったりし、学び、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や家族等の面会時に思いや意向を聞いている。又、日々の暮らしの中で利用者の言葉や動作で察知するように努め、本人の気持ちを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴や思いを把握し、家族の要望を聞き、ミーティングや担当者会議で職員と意見交換を行い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録を活用し、3ヶ月に一回の見直しと、状態変化の場合はその都度見直しを行っている。見直し後の評価をして家族にも報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、医療処置を受けながらの生活の継続、特別な外出の支援など本人、家族の希望や状況などに応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医の受診を支援している。受診後の報告も家族にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りの例がないため終末期に対するホームの対応や指針は定められておらず、検討の段階である。		終末期に関する対応指針を定め、ホームのできる最大限の支援について主事医、家族、看護師、職員を交えて十分な話し合いを行い、本人と家族の安心と納得を得られる支援の取り組みを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。個人情報の取り扱いについては、契約時に利用目的の説明を行い同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりごとではなく本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳等は一緒に行いサポートしながら職員も同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望、生活リズム等の状況を把握して相談しながら入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩やドライブ、手芸、園芸作業、食事の準備等できる事で、力を発揮してもらい日々楽しく過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外食、公園、美容院、デイサービス等へ自由に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを心がけており、利用者の様子や言動をきめ細かく見守り、自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間想定避難訓練を入居者と職員で行っている。台風や災害に備えて、食料品や飲料水の備蓄もある。		運営推進会議や自治会などで、住民の協力が得られるように呼びかけて、災害訓練に参加してもらったり、いざというときに駆けつけてくれる関係を築いていく取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
で					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録している。水分量は利用者のカップを目やすにしながら、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした明るい共有空間である。畳のスペースがあり、利用者がゆったりとくつろいでいる。随所にソファが置かれている。季節行事の装飾品があり、家庭的で温かい雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、仏壇、タンス、ポータブルトイレ、自作のパッチワーク、自身の経歴の免許状など、それぞれ利用者の好みや馴染みの物が持ち込まれ、個性のある居室になっている。		